

犬の避妊手術(女の子)

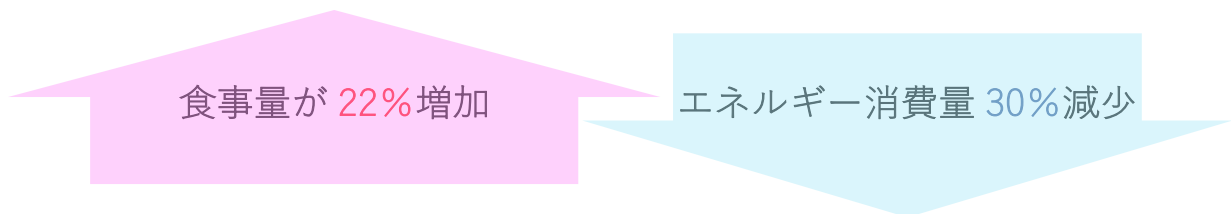
目的

- ① 望まれない妊娠の防止
- ② 病気の予防
- ③ 発情のトラブル防止

効果

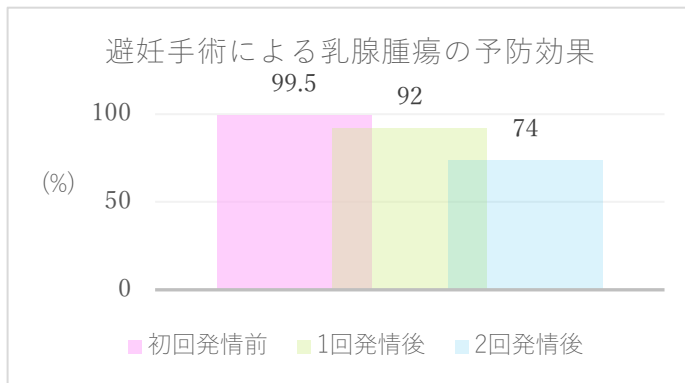
- 妊娠しなくなる
- 乳腺腫瘍、子宮蓄膿症、卵巣や子宮のがんなどの予防
- 発情出血がなくなる、発情期の体調変化がなくなる

注意点 避妊手術後は太りやすくなります



避妊手術と乳腺腫瘍（乳がん）の関係

- ◇ 高齢になると乳腺腫瘍の発生が多く、**ヒトの3倍**なりやすいといわれています。
- ◇ 乳腺腫瘍の発生は、若い頃のホルモンに関連していると考えられています。
- ◇ **早期**に避妊手術を行うことで、乳腺腫瘍の高い予防効果が得られます



◇ 手術について

- 推奨時期：6ヶ月齢以降
- 手術方法：お腹を開いて卵巣と子宮を取り出します
- 入院：1泊2日
- 抜糸：なし（1週間後再診）

◇ その他の検査・手術

避妊手術の時に、犬種によって他の検査や手術を行うことがあります

- 大型犬：胃捻転の予防手術
- 短頭種：鼻の手術、のどの手術（軟口蓋過長症）
- ドーベルマン、コーギーなど：止血異常の検査

